

特253

95

昭和十一年一月

明 魂 錄

川岸村經濟改善委員會
川岸村農會

始





神の御胸か大地の中に

(一)

人の命の泉は盡きず

緻とる我等かたみに扶け

興し作らん皇國の富を

(二)

瑞穂の國の歴史を崇め

大御寶のいそしむ業を

大御寶の榮ゆるすべを

導きすゝむる我等の農會

人は高ぶりなべて驕れり

(三)

いざ鐘鳴せ世の目醒むべく

恭しきは我等が心

正しき道は我等が行手

(四)

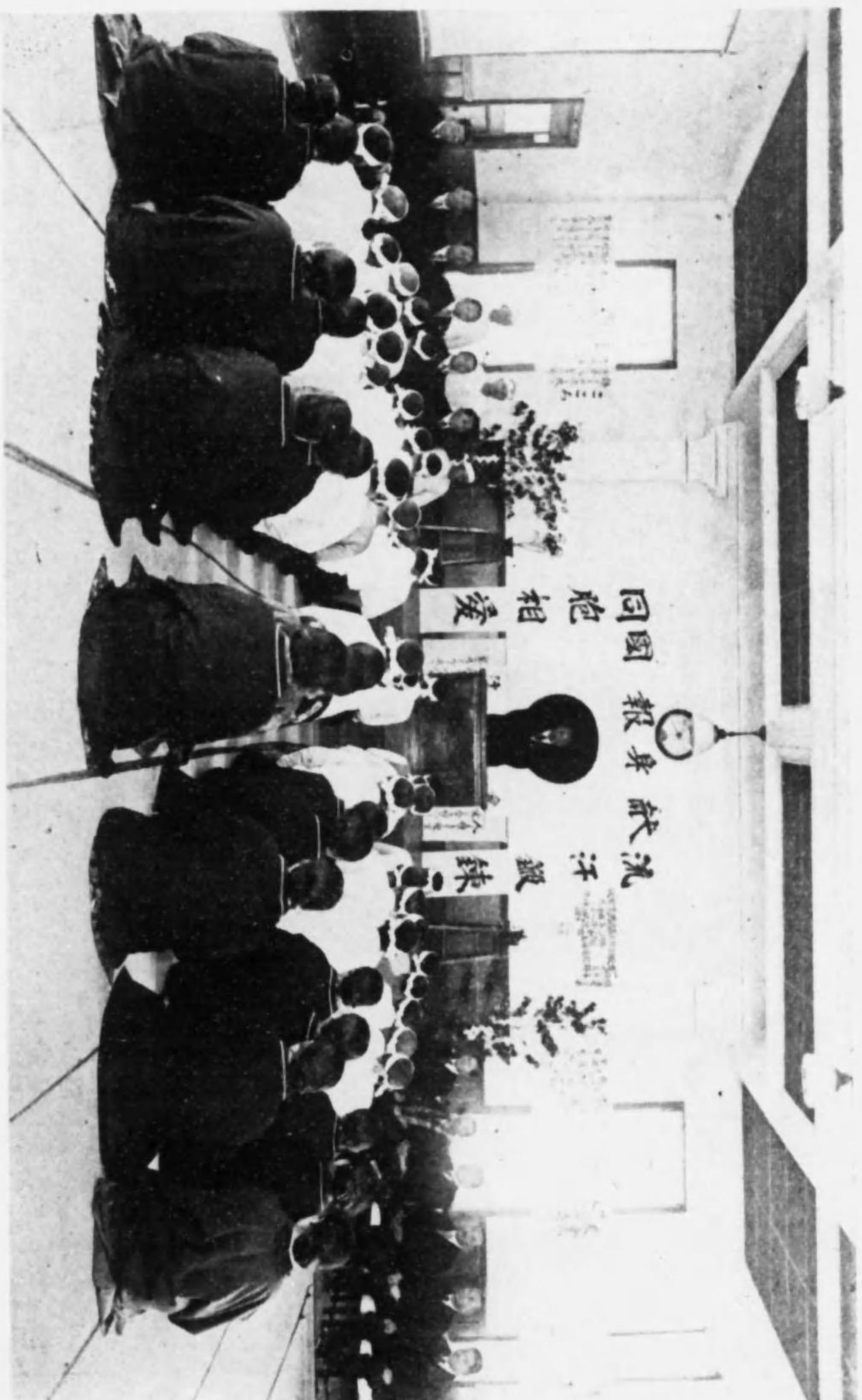
陽の如明く地の如く剛く

たゆまぬ心いざ勵まして

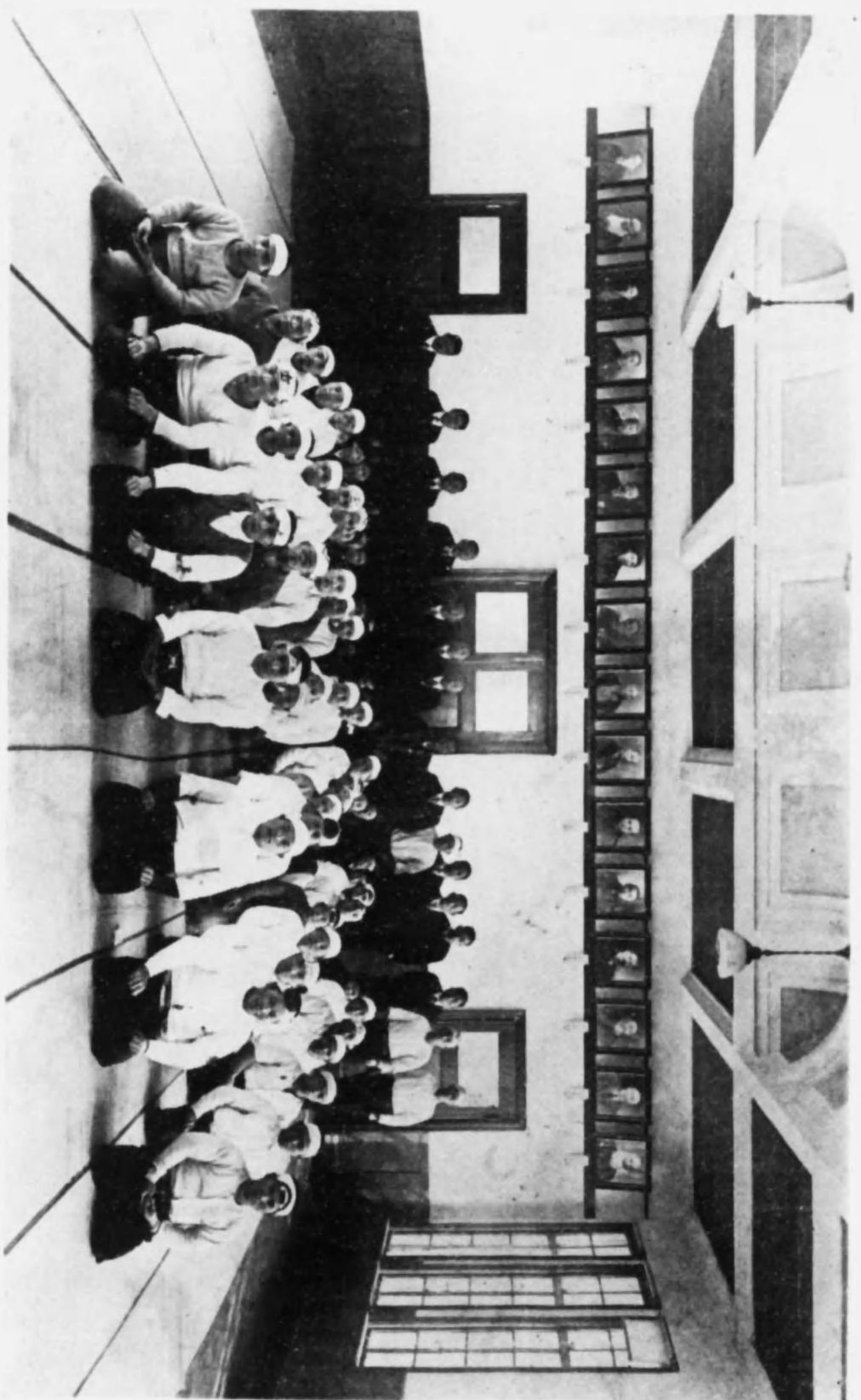
皇國の護りに振ひて起てと

見よ農會の旌旗は高し

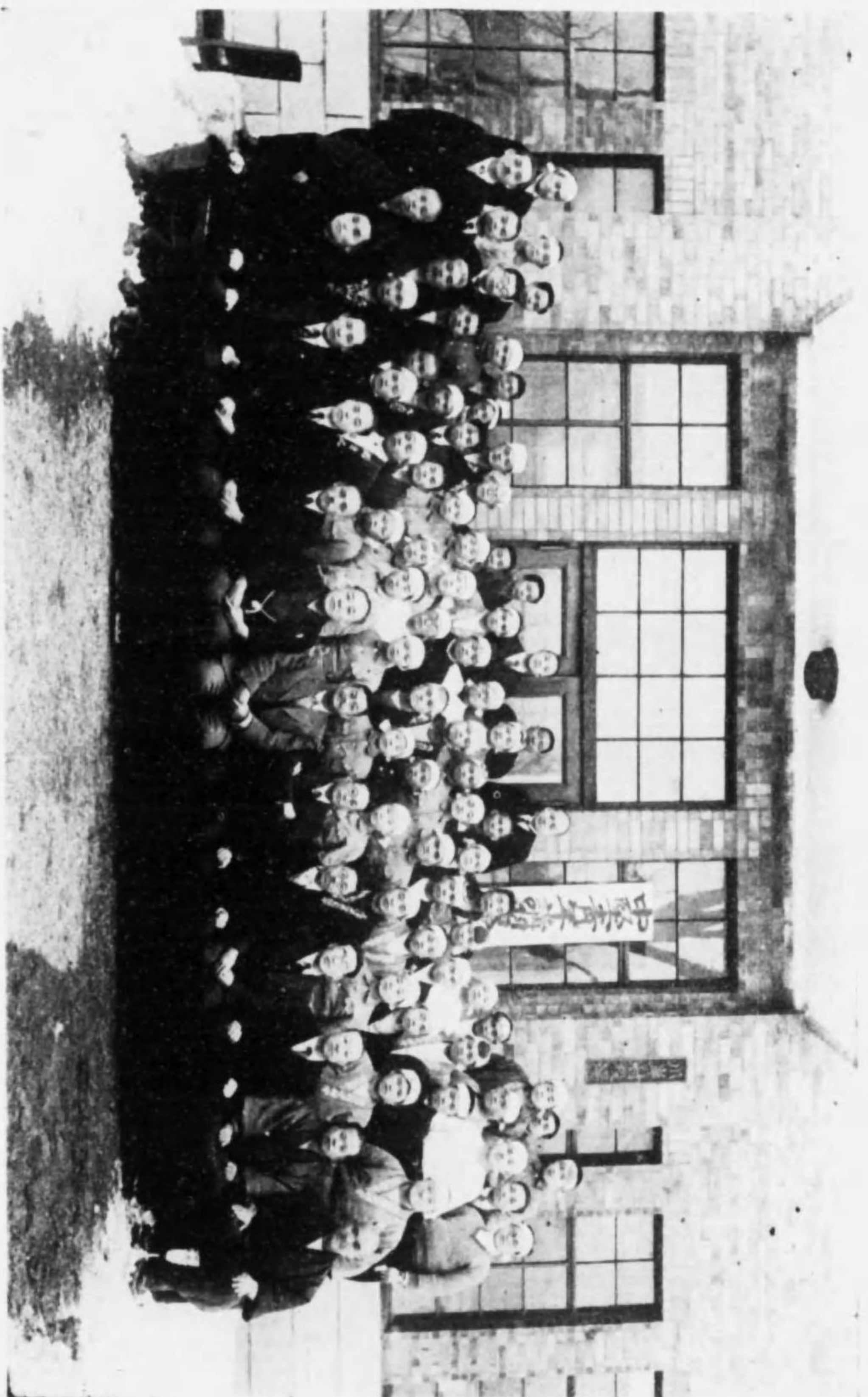




中堅青年講習會 (共ノ一)



中堅青年講習會 (其ノ二)



中堅青年講習會 (共ノ三)

緒言

現下農村非常時に直面し健全なる更生農村を建設せんとするや、須く青年に俟つもの多し。本村經濟改善委員會並村農會茲に鑑るあり、質實剛健なる青年の力により本村産業の開發と經濟更生の徹底を期せんが爲、一月二十八日より三日間酷寒零下二十度心骨に徹するの期、第一回中堅青年講習會を開催す。

講師は何れも各部門に於ける權威者にして、該博なる蘊蓄を傾けられ、受講生又熱意と緊張に燃え短期間乍ら寢食を共に、朝に夕に或は祈り或は學び、専ら精神修養に力め以て相當の成果を修め得たりと信す。

本集は此の講習を永く臚裡に藏し、今後本村更生に資せんとし、受講生並關係者の感想を集録せるものなり。固より文章の巧拙を問ふに非ずして、内に躍動しつゝある堅忍不拔の精神を汲まれんことを欲す。

昭和十一年一月

川岸村經濟改善委員會 主催第一回中堅青年講習會計書

一、受講者數 四十七名

二、場 所 川岸村役場樓上、片倉蠶業講習所

三、期 日 一月二十八日午前八時開會式 一月三十日午後五時閉會式

四、講習課目並講師

課目	講師
一、地方自治論	長野縣會議員 川岸村農會 長 宮澤源勇
一、修養論	長野縣農林技師 諸田盛男
一、農村更生の根本義論	長野縣農林技師 小西德治郎
一、國藝論	長野縣農林技師 小林只雄
一、經濟更生計畫に就て	長野縣農林技師 淺沼鶴市
一、農村經濟更生論	經濟部諏訪出張所長 荻原駒人
一、農家經營改善論	長野縣農林技師 長尾直人
一、經濟更生に就て	經濟部規畫課長 石丸敬次
一、蠶絲業の趨勢	經濟部蠶絲課長 荒井馬次

一、感謝の生活	昌福寺住職 桑澤宥心
一、農業經營實驗談	篤農家 山崎富春
一、産業組合の現勢	長野縣農林主事補 金子安男
一、農政時事問題	長野縣農會 幹事兼技師 伊藤龜藏
一、地方制度論	長野縣地方課屬 辻吉太郎
一、海外發展に就て	大日本力行會長 永田 稠

五日 課

一、起 床	午前五時	二、美化運動	午前五時二十分
三、國旗掲揚、皇國運動	午前五時三十分	四、村社參拜	午前六時
五、朝の行事	午前七時	六、朝食	午前七時四十分
七、講義	自午前九時至正午	八、晝食	正午
九、講義	自午後一時至午後四時三十分	一〇、美化運動	午後四時三十分
二、體操國旗降	午後五時	三、夕食	午後五時四十分
三、團 樂	午後六時十分	四、講義	自午後六時四十分至午後八時四十分
五、夜の行事	午後八時四十分	六、就 床	午後九時

本講習終了者中二名選拔し伊勢の神都講習へ受講せしむ。一名に付拾五圓宛補助するものとす。

講習修了者一覽

部落名	氏名	生年月日	職業	籍柄	最終卒業學校
三澤	片倉 勘四郎	明治四十三年四月二十八日	農	伊三郎 長男	尋常高等小學校
同	片倉 康雄	大正六年五月二十六日	同	仁三郎 長男	青年學校
同	橫内 高廣	明治三十年十二月十五日	同	戶主	尋常高等小學校
同	橫内 利市	大正六年四月二十日	同	三郎 長男	青年學校四年
同	小松 幸人	明治三十六年六月二十一日	同	近太郎 長男	尋常高等小學校
同	小松 平一	明治四十四年十二月廿八日	同	關治郎 二男	同
同	小松 賢吉	大正六年十一月一日	同	定吉 三男	青年學校四年
新倉	三澤 作男	明治四十年七月十二日	同	宇源治 養子	尋常高等小學校
同	三澤 義信	大正七年八月二十五日	同	義雄 四男	青年學校三年
同	三澤 重男	大正八年十月三十一日	同	武雄 長男	青年學校二年
同	三澤 信弘	大正九年六月十八日	同	邦男 弟	青年學校一年
同	三澤 清衛	大正八年二月二十二日	同	與一郎 長男	青年學校三年
同	三澤 清衛	大正八年三月十五日	同	團治郎 次男	青年學校三年

同	西村 久則	明治三十一年十月一日	同	戶主	尋常高等小學校
同	遠藤 長雄	大正六年六月十七日	同	留雄 長男	同
同	山崎 正行	大正二年十一月九日	同	上め 長男	諏訪蠶絲學校二年修業
同	山崎 嘉一	大正九年三月一日	同	保男 弟	青年學校二年
同	辰野 金司	大正六年四月十日	同	傳 長男	青年學校
同	堀川 正義	大正四年一月十五日	同	仁助 長男	尋常高等小學校
同	堀川 明敏	大正五年十月二十九日	同	俊太 長男	同
同	中島 村吉	大正六年十一月十五日	同	義重 次男	青年學校四年
同	中島 敏夫	大正九年十二月十五日	同	義一 三男	青年學校一年
同	中島 邦司	大正九年七月二十日	同	金保 二男	同
同	中島 平之助	大正十年二月十四日	同	隆 長男	同
同	藤澤 金左衛門	明治四十五年六月一日	同	一 弟	尋常高等小學校
同	長田 稔	大正七年六月十八日	同	好彌 長男	青年學校三年
同	田中 貞一	大正七年七月十六日	同	三郎 長男	尋常高等小學校
駒澤	宮澤 金吾	大正八年六月十日	同	戶主	青年學校二年
同	宮澤 貫一	大正二年三月十一日	同	守人 長男	青年學校
同	宮澤 源美	明治四十四年一月十五日	同	源勇 長男	關東商業學校
同	宮澤 今朝四郎	大正四年十一月二十日	同	清晴 弟	尋常高等小學校

同	宮澤國幸	大正七年三月三十一日	同	戸主	青年學校四年
同	宮澤要	明治四十四年十二月廿二日	同	源治長男	尋常高等小學校
同	宮澤武春	明治四十四年四月二十四日	同	万作長男	同
同	宮澤米春	大正九年三月三日	同	儀一長男	青年學校二年
同	宮澤今朝彌	大正三年十一月二十二日	同	滿弟	尋常高等小學校
同	宮澤好知	大正二年九月十七日	同	戸主	同
同	宮澤代吉	大正六年三月二十四日	同	皆治郎次男	青年學校五年
同	宮澤一豐	大正八年三月七日	同	戸主	青年學校三年
同	宮澤廣安	明治三十八年一月九日	同	戸主	尋常高等小學校
同	宮澤正象	大正三年三月十八日	同	戸主	同
同	鮎澤小泉弘美	大正八年十二月十六日	同	辰雄長男	青年學校一年
同	橋原鮎澤多喜男	大正八年三月十一日	同	實也長男	諏訪中學校二年修業
同	橋原花岡朝一	明治四十二年三月二日	同	喜一弟	尋常高等小學校
同	林市重	大正三年六月三十日	同	忠平長男	青年學校卒業
同	花岡正展	大正九年三月三十日	同	仁次男	諏訪蠶絲學校三年修業
同	上條正	大正元年十二月十五日	同	今朝吉次男	尋常高等小學校

中堅青年講習會に就て

桑澤宥心

今回本村に開催された講習會こそ、實に意義深く得る所亦多大なりし事は、蓋し前後を通じて稀なりと思ふ。諸名士の三日に渉る講演に裨益するもの多きは勿論なるも、殊に喜びに堪へぬは片倉蠶業講習所を宿舍とし共同生活をなし、坐作進退、食事に至る迄修養的訓練をせられし事である。惟ふに諸君が一生涯を通じての肝銘深きものゝ一にして、其の得る所は實に自己のみならず郷黨、國家、社會に貢献するものと信ずる。又斯くてこそ村當局始め各方面より此の舉を贊同後援せられし甲斐ありと申す可きである。

尙熱意ある女子青年の諸姉妹が聴講せられしことも居村更生の力強き味方を得たこと、甚だ嬉しく感ずる。此の舉を始めより衷心歡び、願くは共に聴講し寢食を一にして自己の修養にも資せんと思ひしが、不幸藪妻重病の爲これ果し得ざりしは遺憾の極み、唯僅かに一夕の講演を爲し得たことはせめても心遣りの一である。私は居村二十有九年の間此舉程嬉しく感じたことはない。特に淺沼農會技手が終始熱心に斡旋せられ、宿舍に於て寢食を共にし信仰的立場より指導せられしことを感謝する。恐らく氏も後日思ひ出の深きものゝ一であらう。

青年諸氏に告ぐ

中島欣三郎

中堅青年講習會開催するの決定を見、青年教育上又本村の將來非常なる有意義の催と計畫に當りたる宮澤農會長に感謝

致します。

青年會員も村全體より見れば多いのでありますが、申込を見ると少人数にて驚かされました。四十七名の講習生、然し多くの人数よりほんとうに真剣味のある者の集りを見て量より質である事を思ひ、受講者諸君の此の三日間の短い講習期間を最も有効に終らせたいと神に祈つて居ました。幸ひ計畫通りに進み、無事一人の落伍者も無く終了致しました事を嬉しく存じます。

講習會を返り見て、先づ本村講習會の事業中この會の如き規模の大なるはこれが始めてであると思ひます。講師諸氏の顔ぶれを見ても、先づ此の講習の意義ある事を證明するものであります。これも縣會議員宮澤氏の出身地なるが故、講師諸氏も都合せられたものと思ひます。先づ郷土より人物を出す事が如何に有利かを痛感するのであります。

講師諸先生も熱心に講話下され、又受講者としても真剣に、中でも桑澤宥心先生は御内室様の病氣重態なるにも拘らず出席され講師としての責任を全うされ、又講習生三澤清衛氏は叔母様の死亡せるに約三十分の時間丈にて悔をすまし受講せるなど、如何に真剣であつたかを證明するものであります。此の三日間、講習生と起居を共にせる淺沼氏、影となつて黙黙働いて下すつた三輪氏の其の努力に對して、講習生一同と共に感謝するものであります。

この有意義の講習を開催するに當り、村内各位の無關心には驚入りました。この好機會に遊び居る餘暇を利用して聴講せられたなれば以上の効果があつたものと考へるのであります。

先づ本村の農會の事業にて様々の計畫を立て農業經營上に力をなすも、其の農業の當事者の精神上の缺點より目的の成績に達せぬ事は實に本村の大損失と申さねばなりません。現在の狀勢より見て、一家一村が共力して事に當るの精神が最も必要であります。殊に將來村を負つて立つ青年諸君には其の心掛が大切であります。教育なるものはすぐ役立つものではないのであります。諸君が學校を卒業して一人前になる、其の間を修養時代と考へます。其の修養時代に自ら進んで修養し勉強するでなければいけません。必ず青年諸君全部が其の考へにて居る事と存じますが、其の精神の強弱によつて進

む者退く者の差を生ずるのであります。自分以外の者は皆競争者である。其の戦に落伍せぬ決心を以て總てに當らなくてはなりません。先づ何をするにも精神教育が第一であります。この精神が出来ておらぬ者は如何なる仕事もなし遂げる事は出来ません。青年諸君は人を頼る精神を捨て自ら生きる精神に返り、萬事に向ひ進みたいのです。

諸君が朝の業事として、あの寒い校庭にて裸になり體操をした事を考へてごらん下さい。何事もなせばなるものです。必ずそう御考へになつた事と存じます。さうして朝五時より夜十時迄次より次と行事を続け、不平不満を抱かず、休む暇もなくとも必ず楽しい生活を続けられた事と存じます。何事も暇をこしらへると色々餘分の事を考へ、不平不満を生ずるのであります。先づ平常にあつても家事上又自分の仕事の順序を次より次と考へ、明日の仕事のわからぬ事のない様に豫定をたて活動するが大切です。

今流行の如くに副業は何かないかと盛んに言つて居ますが、農業をやつて居る者は仕事はやりきれない程あるのです。副業と言へば何か生産して賣出す事のみ考へて居る様ですが、農家の副業は此の寒い間に農業に必要な物を造り、暖くなつて田畑の仕事を始める先にたつて草鞋を作る、縄をなふ、コデをあむ、蠶籠のふちを巻くと云ふ様な事では能率が上らぬ事となります。暖くなつてよりは畑の草の一本も多く取つたがよいのです。此の寒い中に其の準備をする事によつてよい収入でありよい副業となるのであります。先づこれよりの農業經營は今迄と異つて相當頭を使つて行かなくてはなりません。諸君は村内の代表者であります。此の講習に受けられたる總べてを應用され、村の中堅となり各方面に模範的に活動する事を御願申します。

此の講習に於て村全體としての力の入れ方の不足を遺憾とするのです。必ず今後は此の如き事業を續けて行ふ事と思ひます。其の折は諸君が先頭にたち御活動下さい。講習中に於ける規律的精神訓練は充分でなかつた事と存じます。

青年諸氏よ、自己の責任を常に忘れず修養せられます事を希望致します。

中堅青年講習會を顧みて

川岸青年會長 宮澤美貞

曩に本村經濟改善委員會並に本村農會の主催の下に中堅青年講習會を開催される報に接するや、青年會の一員として血湧き肉躍るの感あるを以て早速これに参加の一員となり、亦役員諸氏と相謀り力ある丈け募集に務めました。幸に日に増し受講生の賛成者あるを見て御趣旨の途上にあるを思ひ感慨無量でありました。

來るべき開講日の二十八日を待機して居ました處、不幸にして二十五日の朝より頭痛を來たし、時々刻々と熱度が増すばかり、終日遂に醫師を招く處となりまして診斷を受けた處、以外にも三十九度六分、只全快を祈るのみでありました。二十六日二十七日も暮れ、愈々二十八日の朝、ふと眼を醒まして時計を見ると六時三十分、誰かしら道を通る音がする。お早やうと聲をかけて呉れた。今朝四郎君であつた。具合は何うだと言つて呉れた。其の時自分は只涙……。「未だ具合が悪くて困るがどうか一生懸命やつて來て呉れ、俺の代り迄頼むぞ、淺沼様に宜敷く萬事を御願ひして呉れ」と涙を吞んで床の中で言葉だけで送り出した。

最後の五分間に於て斯くなるは残念であり、亦主催者各位殿並講習生に對しまして申譯もない次第でありましたが、詮方なく、只講師方の御懇篤なる御指導の下に、受講生の中一人の落伍者のない様意義ある講習會を盛會裡に終了され、多幸あらん事を神に御祈りして居た次第であります。

希くは主催者各位殿、この意義ある此の講習會を一回にて終らず永遠に繼續致され、吾々青年を御指導下さいまして本村更生の爲めに御後援下さらんことを偏に懇願致しまして責の辭に代へる次第であります。

感想

川岸女子青年會長 宮澤清水

此の度の中堅青年講習會に女子青年も参加させて戴きまして有り難う御座いました。かうした有益な御講演を拜聴出来なかつた事を今更残念に思つて居ります。私は何もこの講習會に對して述べる資格はないのですけれど、昨年縣主催によつて開催された中堅女子青年講習會を受けましたので、その時の氣持等を思ひ起して茲に一言感想を述べさせて戴きます。

あの講習會によつて私は精神的にも肉體的にもよき修養の出来ました事を非常に感謝して居ります。多くの知識を得られた事は勿論ですけど、講演だけでは得られない氣持も味ふ事が出来ました。朝未だき頃、清められた屋外にて新鮮な大氣を満喫し乍らラヂオ體操、駆足等をし終つて、疲れた體を休め乍ら東の空に日輪を仰ぐ時の崇嚴な爽快な氣持、この一瞬こそ、汚れた社會の何物もなく、唯無我の境地にひたる事が出来ました。私はあの氣持だけでも大いに得る事があつたと思つて居ります。又共同生活の味はひ、見知らぬ人とも十分足らずで友達となり、總ての仕事に對しては自己主義を捨て、共同主義によつて大勢の爲めにと云ふ様な美しい氣持に自然なつて來ます。

これ等を考へますに、青年講習會が如何に有意義なるかを思はされます。自分の經驗からしても、かうした講習會を是非女子の爲めにも開催下されます事を切に希望致します。講習によつて特に修養を重ね、農村の中堅青年となり、第一に我が村の更生を計り、進んで非常時を立派なる青年の力によつて打開して行くべきだと思ひます。

講習生感想

□

三澤 片倉 勘四郎

打ち続く農村疲弊窮乏は全農村を擧げての悲境の秋、正に非常時、昨年の如き豊作を謳歌して居た米作も出穂期に入り空前の冷長雨に悩まれ、其の豫想も裏切られ其の力さへ奪ひ去られんとする惨状を呈し、此の農村困憊の難局を背負ひ更生に進むこそ與へられたる農村青年の使命であらう。今度本村經濟改善委員會並に村農會の主催の基に本村中堅青年講習會が開催され、本縣郡の權威者並に講師諸先生の眞剣なる教に、其の一言一句が我々の腦裡に深く刻み込まれ、此の農村の状態を何に更生すべきか、其の更生こそ此の講習に於て鍛へ得たる精神により、先ず精神的改魂をなし、自給自足を念頭に理論の輕重を論ぜず、最早何事も實行の今日、自確ある信念を軒昂し強化して、自己の職業に愛と汗とを打ち込み、皇國の農民として本村の陣頭に立ち同志四十七人は、あの元祿時代の赤穂浪士を想ふ時、大義の前には温い肉親の情愛も義理人情も總てを犠牲としなければならなかつた、あの赤穂浪士の血と涙に充つる眞の生涯を思ふ時、我々同志は、此の荒れすさんだる農村の前には總てに犠牲となり、其の責任を持つと同時に果す覺悟を持たずに居られない。あの神前に捧げたるあのお燈火は、あのロソクは自分の身を焼きつけづりつゝ、一切を犠牲とし自己の本性を發揮し、世界を照すが如く、先づ自らの力によつて自己の立場を確立し、正義國家の建設に疲弊より更生への唯一路を邁進し、農民團結し一丸となつて、明るき農村更生の途に其の一日も早かれかしと祈りつゝ所感の一端を述べ併せて親愛なる諸君の御健康を祈りつゝ筆を置く。

明治天皇御製

永へに民安かれと祈るなるわが世をまもれ伊勢の大神

□

三澤 片倉 康雄

農村更生は青年の力によつて出来て行くものであると私は信じます。それには、青年諸君の事にあたるに、愛と汗とによつて行つたなれば出来ないと云ふ事はありません。常に神を愛し、神に感謝し、神に信頼し、神に従ふと云ふ所まで自己を向上せしめる前に、先ず人間を愛し、人間に感謝し、人間に信頼し、人間に従ふ所の自己を養つて行つてこそ出来るものだと思います。

何事をするにも、自己を思ひ自分の心を磨いて行かなければいけないのだ。たゞ自己の職業を愛し、その自分に與へられた天業に向つて一生懸命に働く事だ。

名に負へる瑞穂の國を瑞國となすは我等の務めなりけり

□

三澤 横内 高廣

我が川岸村の更生の第一歩として中堅青年講習會開催に當り、諸君と行を共にする事の出来た事を無上の光榮とすると共に深く感謝致します。此舉たるや我が川岸村始まつて以來曾てない一大壯舉と言つても過言でない事と信じます。期日こそ三日間に過ぎなかつたが、本縣の權威ある講師と指導者淺沼技術員及農會總代の中島氏等の熱心なる指導に依つて、多大なる收穫を得た事を切に悦ぶ者であります。

さて此の講習に依つて何を得たでせうか。今までの信仰のない不平な生活、何等の計畫なく不規律で自己反省のない實に無意識な生活をして居る事が發見されたのであります。今回の精神修養に依つて心の更生が出来て、パツと明るい社會に出た様な感があるのであります。あの未明の朝、酷暑零下二十度の校庭に立つて裸體となつた時の氣持……何時迄も忘れぬ事の出来ない、何事もなせば成るの言が思ひ出されるのであります。

諸君大いに奮起しようではないか。吾等四十七士は手に手を取り合ひ、此の講習が無意義に終らぬ様大いに研究して、自力更生をモットーに世界に誇る我が大川岸村を建設しようではないか。

□

三 澤 横 内 利 市

不肖此の度講習會に講習生として列席を得たるは最大の幸福であります。尙兩親に對し祖先に對し又村に對し深く衷心より感謝する者であります。些か講習に對しての感想を述べて見たいと思ひます。

先づ昨年の一ヶ年を回顧せば多事多端の一年であつた。我々は只「愛と汗」の力に依つて農村が將來進むべき道、揺がない根本的基礎を建て隣保共助の精神に則り、自力協同の力を以てこれが實行に邁進するにある。

不幸にして昨年の如きは未曾有の凶作であり、且つ水害、旱害、冷害等の天災多き年であつた。又經濟方面に於ても不況の波を打鎮める事は出来なかつた。斯くの如き疲弊困憊其の極に達せる農村を更生するは堅實なる青年其の者であらう。然れ共青年たりと雖も天災に向ふ所なく更生に目覺める者なし。都會に憧れる者尠からず。然しかゝる農村現況を只安閑として見て居られやうか……如何にして農村を立て直すべきか、目的達成には相當困難なりしが、幸にして茲に講習會に列席し暗夜に燈明を得たるは小生の最大なる喜びであります。

今や我が國は内外共に非常時局なり、今後は更生精神を發揚し、尙益々一大農村の良き指導者として唱導且つ百姓精神を活用し勇往邁進せんとするものであります。

講習生諸君！ 爽かなる野の風に汗ばむ頬を吹かれ乍ら「理窟」をよそに農村更生の只一路へ互に魂を打ち込んで、眞剣に鍛を振らう。録を執らう。

大空にそびえて見ゆる高嶺にものぼればのぼる道はありけり
骨ぶしの續く限りは働かん及ばぬ先は神に任せて

鬼となり佛となりて世の中に盡す誠ぞ心なりける

□

三 澤 小 松 幸 人

我が國農村教育の現状は如何であるかと見渡しますと、我が農村に果して農村の實際に適合せる教育が行はれて居るかどうか、又農民が果して正しい人生觀に生きて居るかどうか、否々國民は擧げて物質文明に陥り、協同精神を缺き筋肉労働を厭ひ、悉く都人化しつゝある今日、村當局の方々の御力に依つてかくも農村教育に適合した教育をなされた事を喜ぶと共に、淺沼技手のかくも熱心に御指導下さつた事に對しては涙なくして居られぬ事であります。我々指導者として力強く川岸村農村の更生は近きにある事でありませう。

私も一昨々年度より自給肥料等に思ひつき養兔を初め二〇頭を飼育致しまして、昨年五月より一頭の豚を飼つて厩肥一千貫を得て居ります。又その一頭の豚は本年交尾致しましたから又何頭かに殖えて行く事と思つて居ります。

我が國は天祖の神代以來神勅に瑞穂の國とあり、天の岩戸の繪にも鶏が居ります。我が國は神代以來有畜農國であります。今後益々農村更生に心身を打ち込み進み行く決心を高められたのであります。

キリストは「野の百合の花は如何にして育つかを思へ、ソロモンの榮華の極みの時だにもその装ひこの花一つにも及ばざりき」と説いて居ます。すべて生命は自然の世界に生きる事が極樂生活であります。自然を愛する者は自然に愛され、自然に親しむ者は自然に恵まれます。

俺達は脚下の美を發見し、百姓そのものゝ美を發見しなくては幸福であり得ない。幸福とは美の發見者のみの知るものではないでせうか。百姓なれば堆肥の中人糞の中に其の醜きと反比例してきつと美しさのあるを悟りたい。自分が清く明るく正しければ美の發見は容易である。

四十七名の同志よ、我等此の機會をとらへて大川岸農村の爲めに更生の陣頭に立ちて、大きな信念の下に進まうでは

ありませんか。

□

三澤 小松 平 一

農村非常時に直面し、健全なる更生農村を建設せんとするや須く青年に俟つこと多し。本村経済改善委員会並に農會の主催の下に、中堅青年講習會開催に受講生となるは無上の光榮にて深く感謝すると共に、其の責任の重且つ大なるをおぼえる者であります。

本村は従來養蠶中心の經營のため、數年來の繭價の値下りによつて深刻恐慌又稀有の天災凶作等を受けて苦しき經驗、貴き體驗を受け、こゝに經濟更生が叫ばれ、本縣も臨時産業轉換施設をなし、郡に經濟部出張所を設け農業經營の建直し計畫をされてゐるのであるから、本村も益々農家經營改善に努力しなければならぬ。それには我等青年が目覺め、そしてあらゆる誘惑に打ち勝つて善良なる道に進んで行くことは非常な努力が必要である。先づ第一精神修養、心身鍛練をする事だ。流汗鍛練、同胞相愛の二大誓願によりこれを實行に移して自己完成に努力し、一步々々同志を一般に呼びかけ、愛と汗との行者となり光の中を歩む時、明るき農村は其の脚下より展開せられるのであります。總觀和、總努力の善風を振ひ興して以て本村の更生計畫の第一線に立ち、清き明るき農村の建設が我等青年の使命である。

持ちつ持たれつ助けて立たにや人といふ字も立ちかねる

□

三澤 小松 賢 吉

昭和十一年一月二十八日、二十九日、三十日の三日間、村當局の聞いて下さいました短期中堅青年講習會へ私ごときものも加はらせて頂いて、受講できました事は非常なる喜びでございました。本當に短い三日でありましたけれども、得る所は大なるものがあると思ふのであります。

各區より集つた四十七名の同志、熱と力に満ちたる有難い諸先生の御講話、加ふるに愛と汗との行者となつて三日間精進さして頂いたといふ事は、全く大なる心の轉換が出来まして暗夜に光明を得たる心地がするのであります。我々同志は一丸となり、各々本分を盡しつゝ、あの樹の根の如く恰好の好い木にも、その土の下には戦ひもがき苦しみ、精一杯の努力を續けてゐる亂れた女の髪に如く無數の細い根をもつて、一齊に大地にだきついてこそ、あの上には立つてゐる松も、風にも倒れず育つて行くのであります。上に伸びる事はばかり考へずに、下に食ひ入る事をつとめたいのであります。そして我々同志四十七人は昭和の義士となり、何事にも犠牲となつて村の方々の期待に報ゆるべく身を挺して、愛と汗に歸り清く正しく明るき日本を建設しやうではありませんか。

□

丸山 三澤 作 男

皇紀二五九六年、新春劈頭に當り本村中堅青年講習會開講せらるゝに當り出席出来得た事は深く感謝に堪へない次第であります。かうした有意義且重大なる講習會に所感の一端を記して頂きます。

先づ第一に小生は一切總べてが大恩感謝の生活である事でありませぬ。開講式當日は感冒にて多少頭と喉頭が痛かつたのであります。それが僅か三日間の講習にて心身鍛練、同胞相愛の爲め全快の嬉しき日を迎へたのであります。嗚呼嬉しき樂しき喜びの目を迎へられたのも皆祖先の爲め父母の爲め、更に社會萬物の賜であると思ふのであります。これ即ち感謝大恩の生活なりと思ふのであります。

それに協同の精神、心身鍛練をしなければならぬといふ事でありませぬ。如何に國家が力を入れて善導致しても、一人の生活をしたなら、必ずや國家社會の安寧秩序は計り難くましてや更生は出来得ないのであります。殊に農村に於ては、我等同志四十七人よ、若き血に燃ゆる時、手に手を取りて流汗鍛練、同胞相愛、益々心身鍛練と修養をし、我が農村川岸村の爲めに中堅となつて働きます。終りに臨み本講習會理事者各位の絶大なる御助力下さつた事を衷心より御禮

申上る次第であります。以上を以て聊か所感の一端とします。

□

丸山 三 澤 温

【道のひかり】第二章誓願に曰く、

人よ醒めよ、醒めて愛に歸れ。愛なき人生は暗黒なり。共に祈りつゝ總ての人と親しめ、吾が住む郷に一人の争ふ者もなきまでに。

人よ起てよ、起ちて汗に歸れ。汗なき社會は墮落なり。共に祈りつゝ總ての人と働け、吾が住む里に一人の怠る者もなきまでに。

嗚呼尊きかな此の誓願、愛と汗の力、即ち流汗鍛練、同胞相愛の力よ。これ現今に於ける非常時打開の最も重要な事ぞ。村當局に於て吾等青年の上に意を注がれ、此の愛と汗の精神養成と吾が村更生の爲めに、此の度中堅青年講習會を御催し下された事を衷心より感謝するものであり又受講せし吾等に於ては、いよ／＼同胞相愛の精神を目標に、吾が村の更生の爲め努力し以て村當局の青年に對する御好意の萬分の一にも報ひたいと思ひます。

而して受講せし所感といつても、不肖なる吾が身には何んと言つて良いかわからない、只嬉しかつた感謝の心で一杯です。あらゆる方面からの權威者をお招き下さつて、經濟更生、精神更生に對し、長らく御講義下さつた事を思へば、只感謝の心とどうしても實行するのだと思ふのであります。

そうだ、やるのだ、魂の力で。流汗鍛練、同胞相愛の心で、たとへ吾はかの大ビルデングの土臺石の如くなつても、自己を信じ、先づ自己の精神の更生から始めるのだ。そして神の心になるのです。愛と汗の生活、又感謝と魂の生活を目標に、如何なる難關をも打破して、青年の意氣を示すのです。

嗚呼嬉しきかな、此の幸を受けた吾が身、只一切衆生に感謝するのみです。

□

丸山 三 澤 義 信

今回村當局にては、經濟更生は青年に俟つ事多しと、吾等青年に絶大なる意を注がれ、國家長久の礎をこゝに築かんと中堅青年講習會を催され、諸名士を聘し有益なる講話並びに同胞相愛の本義を御教示下されました事は、吾等にとりて大なる得る所あり、誠に國家の爲めに慶すべきことなりしを衷心深く感謝に堪へない次第であります。

此の講習會に修得したる無限の感想は、到底筆舌の及ぶ所にあらざるも、只々感謝と感激に躍る心のまゝに筆をとりて其の一端を記さん。

【道の光】第二章誓願に曰く、

人よ醒めよ、醒めて愛に歸れ。愛なき人生は暗黒なり。共に祈りつゝ總ての人と親しめ。吾が住む郷に一人の争ふ者もなきまでに。

人よ起てよ、起ちて汗に歸れ。汗なき社會は墮落なり。共に祈りつゝ總ての人と働け。吾が住む里に一人の怠る者もなきまでに。

嗚呼尊きかな此の誓願、愛と汗の力、これこそ現今日本の非常時打破に最も重要な力ぞ。即ち流汗鍛練、同胞相愛の大精神なり。起たん、此の大精神を以て吾等の魂の力に依つて、皇國の爲めに一身を抛つ秋は來れり。努め勵みて大義の前には吾が血も濺がん、肉をも裂かん、骨をも碎きて國體の擁護に任じ、思想淨化の爲めには吾は喜び進んであの大ビルデングの土臺石ともならん。

古人は謂ふ、人體には他の動物に超越した生命力と精神力とが潜在すると。成る程生れ乍らにして我等は尊き靈能を一人残らず保持してゐる。此の尊き靈能を講習會に於て急速度に發揮され、此の靈の働きに依つて愛と汗の生活を目標に努力し、以て非常時日本を打開し青年の意氣を示さんと。心境一變、鐵石の如き堅き心になりたるを喜び、衷心深く感謝に

堪えざるものなり。

亦此の多事多端なる秋、人とし生れ出でたる嬉しさ何にかたとへんものなし。非常時深刻なれば深刻なる程亦随つて受くる名譽も大なりと感ず。いざ奮はん。

中堅青年講習を受けて感じた儘に

人の爲め世の爲め國の榮ゆためにえくりかえる赤き血潮が

しみんと父母上のありがたさこの講習に心かわりて

今は唯金も虚名も心なく一途に思ふさわけの國を

□

丸山 三澤 重男

朝五時に起きた。いつもなら寒くてたまらないのに此の朝はなんともなく、その上雑布までかけても寒気には負けなかつたのである。これは中堅青年講習會のお蔭と思ひます。又朝體操を川岸學校庭に於て寒風吹きさらす時に、我等一同肉體だして體操をやつて寒くなかつたことは、氣の持ちようと心から沁みたのである。村の神社參拜に出ました時に我等一同「よいさく」の掛聲をして行く道中、村人達は寒さも忘れて床から音をたて、戸を明けて、我等一同を見送りしてくれました時有難く思つたのである。

□

丸山 三澤 信弘

同志中堅青年は一月二十八日より三日間に亘り、心を生れかはらして朝五時半に校庭に於て、國旗掲揚並に體操、朝の寒い中を裸になりて運動をして身と心を練り、村社に參拜して農村改善を祈りて、同志四十七人の上に村の農村を背負つて立つは青年にあることを感じました。私達同志一同は大使命があり、この不景氣を切り抜けるは青年がしつかりしていな

ければならぬと思ひました。

□

丸山 三澤 清衛

同志一同は、身を潔めて伊勢の大神宮を拜し奉り、又東の空に遙かに皇居を拜し、美化運動をし、國旗に向ひ君が代を合唱して雪の中を氏神様に參詣して、一同お座にすはり心身の鍛練をきたへつゝ、流汁鍛練、同胞相愛の八字は、愛と汗を以て村のために又中堅青年講習生を指導される淺沼さんや三輪技手に恥しくない様にして、一層村の農村更生の陣頭に立てる我等でないかと思ひます。講師が來て川岸の村も更生したと言はれる様に、四十七人が手をつないで明るい光りある村になりたいと思ひます。

明治天皇御製

大空にそびえ見ゆるたかねにも登ればのぼる道はありけり

永へに民安かれと祈るなるわが世をまもれ伊勢の大神

□

丸山 西村 久則

不況農村更生には農村青年に俟つ事多しと見て、川岸經濟改善委員會並に川岸村農會主催の下に中堅青年講習會を御催しになり、講習生四十七名中小生も其の一人たる事を喜ぶものであると共に責任の重大なる事と思ふ。

三日間淺沼氏並に三輪氏の誠心誠意の御指導振り、感謝に堪へぬ次第である。人間精神一度至らば何事かならざらんやであると思ふ。三日間の御話を綜合して考へて見るに、更生の道は多々あれど農村としては先づ肥料が基本と思ふ。此の肥料を安價に求めるが先決問題であつて、金肥を全廢して全部自給肥料で進んで村の模範を示したい。小生も只今小家者なれど大家畜に轉換して自給自足にて更生の第一歩に踏出す心算である。

大空に高く聳える高根にも登れば登る道はありけり

□

丸山 遠藤 長雄

あゝ待ちに待ちし其の日は来たのだ。喜びにふるふる我等の胸、そして我等の前途に平安と幸あれ。私は講習を受ける前に風邪を引き頭痛がして、とても講習会にはのぞめないと一人考へしに、父親の落膽を目の前に見て私は勇気を取り持ちて講習会に出席致しました。行つた其の日宮澤助役さんの川岸村の近況として、川岸村の諸事業の資金の中五分五厘は片倉親族が出して居る、残りの四分五厘が此の村民が出して居るのだと云ふ事に、我等なんと云ふ幸福の事だと私は感謝に堪へませんでした。續いて諸田先生のお話に先づ第一に、更生は村民が全部衷心の心に立歸つて大和魂を打込んで諸事業を眞剣にやるのだ。それには先づ心情整理、肉體整理、環境の整理、生活理想整理、天業補習整理を考へ進む事、今までの農民は金錢のみを目的として来た。つまり金錢を目的とすれば、「金―自己主義―地獄と化す」これを繰返して居るならばとても農村更生は出来ない。此の頃の日大生殺しは單に金錢のみで實子を殺した。目的を金錢のみにしてはいけない。自給自足、生産過多等を考へる石丸先生の第一に基本調査、生産計畫、販賣計畫、消費節約、精神更生等を根本計畫として年次計畫を立て記帳に現はして見て自力更生に進む、かの産業組合創立と進む産業組合は、社會改造獨立理由資本家の獨裁をあごぐ事がなくように協定獨合運動に加はりて、價のある物はある如く、ない物はないの認識し團結して社會の建設を望む事、かの米穀統一は實に有難いと思ひました。政府ではまだ外に整理、改植、混作、自給肥料等には補給して下さる。そして此の農會に感謝の念に燃えて自力更生に進みたい。あゝ此の建設は我等の自力のみ。海外移民も此の信念に燃えて成功せられん事を切に望みます。流汗鍛練、同胞相愛……汗なき社會は墮落なり、愛なき社會は暗黒なり。

あま照す神の御光りありてこそ我が日の本は曇らざりけれ

長野縣約七割は養蠶で持つて居るから、どうしても養蠶の合理化を最急の急務と思ふ。生産過多にならない様に混作、

整理、改植、自給自足等を望む。産業組合中央金庫―府縣信用組合―市町村信用組合―全國購買組合―府縣購買組合―市町村購買組合、絶對團結を望む。最後に私は此の講習は此の農村の暗夜に光明を得た心境だと深く感謝すると共に奮闘して更生致したい。

□

澤山崎 正行

一九三六年、今年こそ更生の道を踏まねばならぬのだ。此の世に生を求めて二十有餘年、人生半歳は將に過ぎんとしてゐます。其の間自分は何をして来たか、足跡はこれでも人間かと思ふ位ですから他人から見ればより以上であつた事と思ひます。

希望から失敗、そして墮落の暗いドン底に落ちた私は、這ひ上る事も出来ず死線を漂ふてゐました。その時はからずも一縷の光明を求める事が出来ました。その光明は此の度行はれた講習會でありました。墮落の最後の瞬間は發奮の最初の瞬間だ。そうだ死を以て何物にでもあたろうと決心して出席致しました。三日間に亘る諸先生の熱心なる講演によつて一縷の光明は更に幾縷かの光明となり太陽となつて、暗雲を押しつけて慈愛籠れる光を與へて下さつたのです。この光こそ更生活動の素因が含まれて居る事と信じます。この光を受けた講習生の心は微妙な躍動に震へてゐた事と思ひます。

嗚呼長い冬眠から醒めた第一歩です。花は咲くでせう、小鳥は唄ふでせう。其の日の一日も早く來る様に身命を賭して本村の更生、延いては國運の發展の爲めに大いに戦ふ覺悟であります。

目醒めよ鐘は鳴り渡る

青年日本の大空に

吾等中堅青年よ

大地を蹴つて雄飛せむ

寄せては返す波の如く

努力奮闘勵ますや

倒れたれば再び起たろ

吾等中堅青年よ

嘲笑侮蔑何者ぞ

艱難苦勞何者ぞ

總ては神の試練なり

過ぎし昔を振り捨て、

目指すは自力更生の道に

一途に邁進突破せん

忍べ苦しめ闘へよ

起てよ頑張れ希望もて

吾等中堅青年よ

やがて來たらむ春の爲に

□

埴 坪 山 崎 嘉 一

千九百三十六年、彼のロンドンに於て開かれた軍縮會議は、日本の主張が不正當として認めなかつたので、日本は軍縮會議場に居る事は全く無意味として軍縮會議を脱退したのであります。いよ／＼我が國の非常時、この難局を打開して行くには熱烈なる意氣に燃える青年にあらずして誰が打開して行くのだ。彼の偉大なるムツソリーニも、彼亡き後は誰がイタリーを背負つて立つかと問へば「青年あり」と即答するではないか。今迄の農村青年の経路を反省して見ると、農村更生の聲は高いのでありますが、少しも其所を實行して居りません。横道にそれる者多く眞實の道を進む者は少いのであります。幸に青年諸君の期待して居た中堅青年の講習會をお聞き下さいました事は、我々青年の進路に取つて一大光明なりと感謝する次第であります。

諸先生の御教への如く自給自足、自力更生を本として其所に大苦難の仕事があつても、途中で腰を折らず必ず完成迄やり遂げる日本精神を持たなければなりません。農村にして見れば各自他から來る他力をたよらず、一家一村自力によつて進み自分の實力でふりかゝる大苦難を切開く覺悟を持たなければなりません。故に文句百より一の實行であります。理想を實現するために講習會に行つたのだ。諸君講習を終了出來た事を感謝し、感謝と共に中堅の四十七士となつて働くべき務めを與へられたのだ。故無言で實行する人が中堅の志士として農村更生、國家の爲にやるのだ。諸君よ愛と汗との力によ

つて進んだならば、再び農村を好況の世の中へ進む事が出來ると私は思ひます。何卒此の意義ある講習會を忘れずに、山奥の王様ライオンは動物の王として、動物界の獨權を以て平和の爲に王冠の位についてゐるではないか。故に青年もライオンの如く農村の中心人物となつて、人類幸福、社會の平和の爲に活動しなければならぬのだ。それが出來なければ萬物の靈長として、又受講生として言へないのだ。それを立派に實現するのが農村中堅青年である。諸君よ、神前に光る御燈明の如く自分の體をやきつゝ神前を照らしてゐるではないか。第一に犠牲心を持つてこの講習會の意義に、川岸村の四十七士となつて理想郷建設の爲に盡す覺悟を持たなければなりません。

所感の一端にかへ青年の進むべき道を一筆書いたのだ。

□

埴 坪 辰 野 金 司

一月二十八日から三十日迄の三日間の講習に就き、講習生の一人として感想を一言書かせて頂きます。今回開催せられたる講習會は、本縣に於ける斯道の權威者を網羅せる多數講師を招聘せられ、農村青年の思想はもとより生活改善、自力更生の精神を根本から修養する上に於て、有意義にして得る所實に大なるものであります。

この精神を修養された私共、堅き信念の基に眞に生きる道、即ち四十七士の討入りする氣概で農村更生改善の旗を先頭に立て音頭を取り、流汗鍛練、同胞相愛の念を以て邁進したなれば、喘ぎつゝある現在の我が國の農村がこの打鳴らす警鐘に目覺め、此の行進曲に共鳴して行く時、我が村は更生されそして伸び行く時であります。

我等青年はこの重大なる秋にあたり、一層奮闘努力し修養歌の聲を張り上げて、光明に輝く理想郷の建設第一歩に手を取り合つて前進する事を希望します。

この意義ある講習會を開催せられた村當局及講話の諸先生に感謝し、亦吾等と共に起居し指導せられた淺沼先生の努力を多謝します。

□

澤 堀 川 正 義

徳川三百年鎖國の夢が嘉永六年に浦賀を訪れたペルリによつて破られてから、日本は歐米諸國の著しく進歩した文明の光に浴し、その文明を輸入し、結果當時日本社會全體の有様は恰も革命を見るが如き急激な變化を來し、上下をあげて頗る大混亂を呈した。従つて才氣の人間多くそのドサクサマギレに、一躍社會的樞要の位置を占めるやうになつた。けれども今日その當時から見れば六七十年隔つてをり、歐米のすぐれた文化も一通り各方面に行き渡つて、社會組織又秩序整頓である今日日本では、最早維新當時の様に抜けがけで功名的成功しようといふやうなことは出来なくなつた。

諸君は常に何事にぶつかつても、これを徹底的に研究することが必要である。若しそれに對して何等かの疑ひを持つて自己判断を頼ることなく、よく先輩にきいて納得するやうにしておかなければならぬ。「問ふは一時の恥、知らぬは末代の恥」といふ古語があるが、これは確かに眞理を語る言葉であると思ふ。故に諸君等は出来るだけの疑問を知識のある人から解いて貰はなければならぬ。これらは即ち進歩を來たす所以であつて、何等恥づるところはない。寧ろ若い我等には最も必要であると思ふ。

僕の知つて居る範圍内で、どん／＼進歩して偉くなつて行く青年は何れも皆かういふ人で、失敗する青年はそうではない。これを換言すれば熱心に問題の眞相をつかまうと努力する傾向のある人は、伸びて行くといふことになるのであると思ふ。ではこれにてペンを止めます。

男兒立志出鄉關 學若不成死不還

埋骨豈期墳墓地 人間到處有青山

□

澤 堀 川 明 敏

「なぜばなるなさねばならぬ何事もならぬは人のなさぬなりけり」私が今度の講習會で最も感じた事は、やらうと思へばどんな事でも決して出来ない事はない。彼も人なり我も人なり人間のする事が人間に出来ない筈がないと深く感じたのであります。私の考へでは人間は好きだから又はかういふ事をしたからやるといふではなく、尤もこれも必要でせうが、むしろやらなければならぬ、どうしてもやるべき責任があるといふ心を持つべきではないでせうか。私は二年ばかり前までは百姓くらい馬鹿々々しいものはない、朝早くから晩方おそくまで一年中ミ、ズのやうな生活をして、それで一向うだつが上らず、唯借金が残るのみである。馬鹿々々しいものであると思つて居たのであります。だがだん／＼考へて見ると決して農業は必ずしもさうしたものではない、今までの農家經營法が間違つて居たのだ、この經營法を根本的に改革したなら、農業は決して悲觀すべきものではないと感じて來たのであります。現在の農村の現状を見ますに、中堅たる青年が農業を捨て、都會へ／＼と集中し農村人口は益々減少し、後に残つたのは徒らに好景氣時代の夢を追ひ、其の時代の農家經營法しか知らぬ老人の者である。このまゝで行つたなら農村の將來は眞に憂慮すべき状態にある。そこで此の農村に踏止まり瀕死の農村を更生させるのは、我々農村の前途を憂ひ農業を愛する青年の義務である。やらなければならぬ仕事であると思つたのであります。一昨年片倉館の修養園講習會で牧野先生のお話により私の考へが間違つて居ない事に意を強くしたのですが、まだ疑問の點がありました。今度の講習會によりそれを一掃し私は心深く決したのであります。

翻つて本村の農業の現状を見ますに、かうした耕地の狭い所にあつては、どうしても其の餘剩努力の利用により現金収入を得飯米の不足を補はなければいけないといふ見地から、我組合では協同の力により農床の製造、其他副業品の生産を始めたのであります。澤組合の事を二三名の講師方が非常に注目すべき組合であると言はれましたが、石丸企業課長の言はれました如く、着々更生の實を挙げつゝあるが、まだ／＼漸く歩けるやうになつた三ツ子の如きものである。眞の

更生はこれからだといふやうなことを言われましたが、これから我々青年が組合の中堅となり將來の我組合をますます向上せしめるのが我々青年の使命である。そしてこの更生途上にある組合を組合員一同と共に總親和總努力の熱意を以て、眞の更生をしなければならぬと組合から出席した我々四名が誓つたのであります。そしてこの三日間に於て受けた精神的修養を直ちに實行にうつして努力する決心であります。

□

夏明 中島 村吉

今度中堅青年講習會開催に當り、受講者の一員として參加出來た事を喜ぶと共に主催者及種々御指導下さつた方々に心から感謝するものであります。

都會に農村に、數年來不況の風が吹きすさび、殊に農村の疲弊は甚しいのであります。こゝに非常時農村更生の聲が叫ばれつゝあるのであります。かゝる時に於て、我々青年の使命こそ實に重大であると信じます。

顧みますれば三日間、短期間ではありましたが中堅青年講習會こそ、有意義であつたと思はれ、又實に得るところがあつたのであります。寒氣零下二十數度、大國旗の下に明け行く東天を拜する時、自らの引しまるを知り、今日一日何事かをなさねばならぬと云ふ覺悟と責任とが感じられました。諸先生方の講話こそ確實なる日常生活の道しるべともなり、心の修養ともなり、我々青年の進むべき道が明かになつた事こそ多かつたのであります。

夕陽西に沈み、一日の行事もつゝがなくなり、靜に黙禱しつゝ今日一日を反省し、今日一日が榮しくそして無駄なく過せた事を世のすべてに感謝せずには居られませんでした。三日間を通じて得た知識、そして體驗こそ、實にすて難いものであります。願はくは今後もある三日間の様な緊張した心持でありたいと思ふ。我々青年の前途は洋々として盡くる處がありません。我が郷土川岸村の改善は受講者一同の力で!! 我が日本は信州青年の熱と意氣とで更生させて行きたいと思ひます。講習生一同の御健康を祈り最後に再び講師諸先生御援助下さつた村の方々に厚く感謝の意を表して止みません。

□

夏明 中島 敏夫

時正に五時三十分、東の空がほんのりと白みかけた頃、我々講習生四十七名はヨイサ／＼の掛聲を合せて校庭へと向つた。零下二十度、此の嚴寒も中堅青年たる自分等には少しも感じなかつた。校庭の裸體操も差程寒いとも思はなかつた。が然し着物を着た時にはさすがに嬉しく、今更ながら着物の有難さを知つたやうな氣がする。國旗掲揚、村社參拜等で心の底迄清められた我々は、すがすがしい大氣を腹一杯吸ひながら講習所へ歸つた。やがて朝の行事もすみ待ちに待つた朝食の時は來た。膳に向つた時には實に嬉しく食物に感謝せずには居られなかつた。九時より學科が初まつた。縣切つての講師の言葉一つ／＼が胸の中に喰ひ込んで行く。行き詰れる處の眞の川岸村を知つた時、斯うしてはゐられぬ、何とかして村の爲に盡さなければといふことで胸が一杯になつた。そしていろ／＼に考へて見た結果、先づ自分を正さなければならぬといふことが頭の中に浮んだ。そして村の爲め國の爲め、及ばずながら何處迄も進んで盡さなければ、いや盡す心に誓つた。

□

夏明 中島 邦司

思へば講習があつた日より一月餘となり、自分の來た後を振り返つて見て實際に前と差のないのは遺憾であります。唯「今日から大きな心にならう」などと空想はしても實行が出来ません。之からは斷然實行しやうとこゝに固く決心致しました。その決心とは昌福寺の桑澤様の言つたやうに、不平を云はない大きな心になりたいと思ひます。自分の實行しやうとしてゐる事は自分には易いやうでも易くありません。それは兄弟が口論も喧嘩も一寸した事でも一寸と言ふ事です。之は他から見れば一寸した事かもしれませんが、自分のやうな短氣者には仕様と思つても却々出來ない。そのお陰で氣持のさつぱりとしてゐない時が、よく朝廷あります。そんな時は仕事をしても面白くありません。それでそれを實行して面白

く何時も仕事の出来るやうにしたいと思ひます。他の諸先生の御講話は餘り自分には過ぎて大きいので、自分如き小さい者はそれをまだ受け入れる力がありません。自分は兄弟の和やかさを度々味はつて、そんな氣がゾウツと續いたらどうかと目の當り浮ぶ現實をつかまうやうに大いに努力致します。

□

夏明 中島平之助

「汗なき社會は墮落なり」とは眞によい言葉と僕は思ふ。彼の蠟燭の如くに我が身を火とし、神前を輝すあの尊い力あるあの精神がなければならんと思ふ。又二大誓願の如くだ、あの精神を忘れないやうにして中堅青年になつて行かなければいけません。僕は四十七人の中の一人であります、講習を受けた以上、心持を持直して我村の爲に人の百分の一でも爲になりたいと覺悟してをります。

僕は農業をしてゐるから僕も篤農家と云はれる程になつて見たいと思ひます。又僕は永田先生の話を聞いたなら南米へ行きたいやうな感じもしました。簡單だが感想文にかへておきます。

□

夏明 藤澤金左衛門

「人生は重荷を負うて坂道を登る如し」とは徳川家康の言である。若しそれが夜であつたらさぞ困難を感じるであらう。私の前半生は烽火のない暴風雨の夜の峠を進み行く如きであつた。十六歳の春、残雪未だ消えやらぬ高尾の山に別れを告げて世の潮流に船を進めた。遠大なる希望を胸に、忘れられぬ日昭和二年四月七日、十餘年間自分を育てくれた故郷に別れを告げて諏訪高原を後に憧憬の都へと旅立つたのである。

然し其處は自分を満足させてくれる希望の地ではなかつた。數ヶ月の後には希望の二字を都に残し苦難を胸に抱いて初秋の故山に歸つて來た。平和な里に歌ふ鳥の聲も、靜かに響く夕暮の鐘の音も、若者の語らひも、自分にとつては涙の種で

あつた。何時しか雪が満山を埋める時が來た。秋は淋しい心に鞭打つて第二の計畫を樹てた。だが失敗だつた。第三も第四も、暴風雨の夜の峠に燈火を持たない旅人と同じであつた。何度かの失敗の續く中に紅顔の日は過ぎ行き、何時かは二十五の春を迎へねばならなかつた。不況の風は靜かに昭和十一年を我等に與へた。此の年此の春、我が川岸村に於て開催された中堅青年講習會、私は好奇心を持つて參加した。だが三日の後に私の得たものは、暴風雨の夜になくはならぬ燈火であつた。三日の生活、それは百枚の半紙を與へられても書き盡せないのだ。

然し「苦しんで得たるものは失ひ難し」とか。私も三日間の講習會より得たる體驗を以て郷土改革の一戦に身を投じ暴風雨の夜の峠を邁進して行く考へです。

□

夏明 長田稔

青年會の集會の時に、川岸村の中堅青年の講習會があるけれど行く人はないかと云ふと二人計りしかなかつた。それから夜、青年學校へ行くと藤森先生より講習の話があつて、却々よい講習だから出ると言はれた。私は出る氣はなかつた。友達より進められて夏明より青年學校生徒五人出る事にした。

二十八日の朝七時に家を出て、四人一緒にもう會場には大勢生徒が來て居つた。外村の出席者も來て居つた。いよいよ淺沼先生の下に指揮されて手拭にて白鉢巻になつた。すると一人なしの顔が引き締つて來た。床の間には日の丸の國旗を中心に、兩側には流汗鍛鍊、同胞相愛と、上には獻身報國とあつた。流汗鍛鍊、同胞相愛と默想して手を合せて歌ふ出した時に、猶緊張して來た私は、此の講習はよく／＼眞劍になつて終り迄聞かうと思ひを込めた。

農村更生する事の一つは先づ青年我等の魂の入替と云ふ事と、農家の自給自足でやつて行く事と、各家の節約と云ふ事と、共同一致して進み行く事と、又狭き此の地を置いて、講師が言つた劍を持つて取つた所は劍を持つて取られる。此の廣き所は我等同胞、若き青年が劍を持つて事に當ると云ふ事をも聞いた。

朝の裸體操も、今家に歸つてはやり得ないが、暗い朝の雪降り風吹くあの時にも裸になつて元氣よくやつた、何事もやれば出来る。此の事もと云ふ事を感じた。私は此の事を出来るだけ精一杯實行致します。

明治天皇御製

大空に聳えて見ゆる高嶺にも上れば上る道はありけり

夏明田中貞一

第一回川岸村中堅青年講習會に参加した私は、近時非常に叫ばれてゐる農村更生は我等青年の重大なる任務である事を自覺しました。現代農村更生には我等青年が自覺して常に明るき農村建設に努めねばならぬと思ひます。今の本村と今後の本村はどうなるかが宮澤縣會議員の御話を考へて見ると、今後もしかの事があつたなら我村はどうなるかと考へて見ると、先づ今本村々民皆が我が川岸村の將來を見て更生に勵まねば、やがては行詰つてどうする事も出来ないやうになると思ひます。未だ本村には畠になる山野が大變ありますが、之を開墾して青物を作り又桑園にでもしたら、まだ川岸村は餘程よくなると思ひます。中堅青年講習生一同、だれでもこの心掛を持つて働いたら、やがてハツキリと明るき川岸村を作り上げる事が出来ると思ひました。

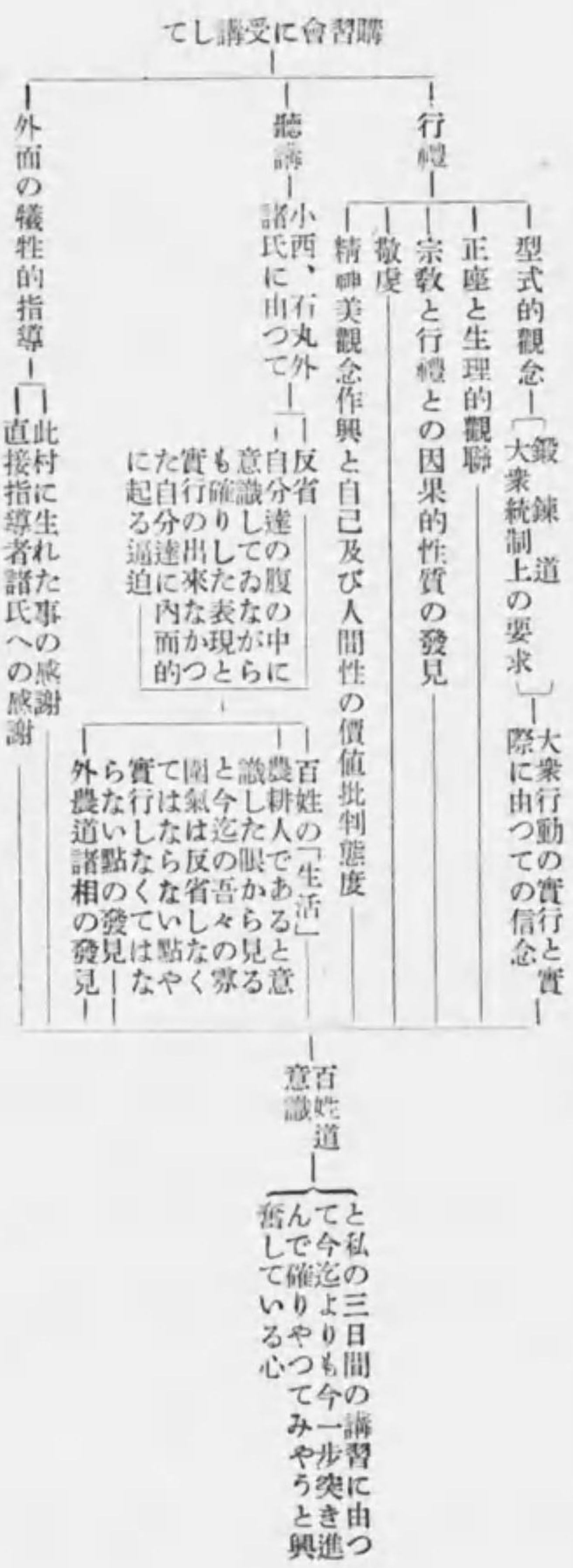
駒澤宮澤金吾

此の尊い三日間の講習會を、本村青年の爲にお開き下さつたことは誠に感謝に堪へません。自分が四十七人の中に參加して、無事何の間違もなく終りましたことは、村の人の厚い愛に、心から感謝して、我が村の更生の第一歩を踏み入れ何分なりとも更生の爲に盡す心掛です。朝まだき空には満天の星がきらめいてゐる内に、講習生一同は國旗掲揚をし、裸體操をしたあの吹雪中に寒さを厭はず出来た事は、何事もやれば出来るの自覺を一層深からしめ、根氣よくねばり強くやる

ことを誓ひ更生の第一歩を踏まん。

講師の熱烈なる講話は、自分の胸に太鼓の響く如く胸にをさまり、我が村我が家の更生は自分がやるべきである。人をまつなかれ。先づ自給自足である。食料の自給少なる物にせよ農より得られる物は取るべし。肥料では堆肥製造、土地を肥やせ、徒らに使ふな。物事は共同で、販賣購入に、稚鷺共同飼育に於ても共同の力に依つてすべく、一厘なりとも無駄にせぬやう、村民の精神更生より一戸一戸の基本調査、生産計畫、販賣計畫、消費節約を我が家よりして本村の更生を目指すべく誓ふ。

駒澤宮澤貫一



右の様な表を作つてみた。勿論三日間の行事や聴話に由つて私一人で感じた、私一人でわかる、私一人での表である筈だから概念的な單語に由つて表現した。

「三日間の講習に由つて今迄よりも今一步突き進んで確りやつてみやうと興奮してゐる心」は、私一人切りでなくて講習生の一同が思ふ事であらう。今迄の自分の百姓に對して持つてゐた心持に反省すべき處も見つめやうし「百姓の生活」と經濟的な方面にも對照して今迄の結果も批判できるだらうし、これからの希望も湧く事であらう。所謂百姓道を再認識して今迄の私の百姓に對しての心の持ち方を、自分達百姓共のグループの雰圍氣を検討し反省しやうとする心組に興奮する者は、私一人でなく講習生の一同もさうであらう。私は私達これからの行動が三日間の講習會の意義の有無を決せられるべきだし、斯うして書いてゐる心組みの表れが決しられるのだから、御互ひに注目もしるし見つけてゐて貰ひたい。

曉の未だ小暗きに目覺つれ知らざることの又多かりし

曉の清澄な感覺と冷たい感觸は、美的觀念の思ひ出ばかりではなかつた。曉の小暗きに起きて働いた古人の生活にも思ひを及ぼす温古的な心地にもならざるを得なかつた私ではある。

此村に生れた感謝の念は講習生諸君が書いてくれるだらう。私はそれに筆は及ぼさないが感謝の心地だけでは人には負けない。

駒 澤 宮 澤 源 美

今回村農會及び生活改善委員會の主催に基いて、木村中堅青年講習會を開催し講習させて頂きました。村長様を始め農

會長様及び各區村會議員に厚く感謝するものであります。農會の淺沼様、三輪様と寢食を共にして熱烈なる御指導の下に、短期日とは雖も無事に終了した事も又同感に堪へません。多數の講師の熱心なる御盡力によつて個人的主義でなく公共的主義、流汗鍛錬、同胞相愛、汗と愛との結晶の精神を以て 天皇陛下に御奉公しなければならぬと思ひました。吾等講習生四十七名は昭和十一年一月二十八日午前五時、君が代の聲に送られて國旗を掲揚して、直ちに吹雪の中を太鼓を先頭に村内各部落を徒歩にて巡廻し、各神社を参拜したのであります。この四十七名は眠れる農民を呼び起す所にこの大使命は果されるのであります。

人よ醒めよ、醒めて愛に歸れ、愛なき人生は暗黒なり。共に祈りつゝ總ての人と親しめ、吾が住む里に一人の争ふ者もなきまでに。人よ起てよ、起ちて汗に歸れ、汗なき社會は墮落なり。共に禱りつゝ總ての人と働け、吾が住む里に一人の怠る者もなきまでに

明治天皇御製

成せば成る成さねば成らぬ何事も成らぬは人の成さぬなりけり

百の理論より一つの實行

四十七士

大塩平八郎作

臥薪嘗膽幾辛酸 一夜劍光映雪寒

四十七碑猶護主 凜然冷殺奸臣肝

村長様を始め主催者及び各講師に對し厚く御禮申上げます。今後共御指導と御鞭撻の程を御願ひして皆様萬分の一なりとも報ひたいと思つて此の一端を書かせて頂きました。

□

駒澤 宮澤今朝四郎

昭和の聖代に川岸農村更生青年同志四十七士の一人として不肖私が、義あり熱ある青年講習會に参加し無事修了致すことの出来たことを心から感謝致します。

僅か三日間の講習でありましたが、主催者並に講師諸先生の御熱心に感じまして、私の心中には筆紙にて表はすことの出来ざる何物かを得たことを信ずるのであります。

農村更生は先づ精神更生である。身體強健にしてしかして自の精神の更生をなし、而して後、その更生せる精神を以て農村更生に當るべきを知つたのであります。

午前五時起床。明け初めぬ星の下に雪を踏み、清らかな我が母校の庭に國旗掲揚、國威の發揚を祈願なし、寒風肌へをつん裂く零下二十度の中に裸になりしあの時は寒さを過ぎて體に痛みを感じました。翌朝は前日に倍して雪さへ交へて吹き荒び、其の寒さはあの時の講習生同志以外には知る者はないでせう。私はあれ程の寒さを始めて知つたのであります。

なせばなるなさねばならぬ何事もならぬは人のなさぬなりけりと知ることが出来たのです。

私は受講致し村當局の御心意を知りまして、農村更生我が村の更生は我々がやる、我々同志がやるのだ。でなくして受講生一同が一人一人の精神が更生運動は俺がやるのだ、犠牲に俺がなるのだ。我れやらざるにして他になしと云ふことはつきり知ることが出来たのであります。同志諸兄も私と同じく我れやらざればと御決心なされた事と信じて居ります。さらば四十七人同志が打つて一丸となり、協力して一つの統制の下に互に勵ましつゝ我が村の更生に進むのであると思ふのであります。俺がやる、それは先づ自身の足許からせかす急がず、しかしておくることなく、着々とその實を上げて行く決心であります。

右受講致しましての今後の決心をしるしまして筆をおきます。

□

駒澤 宮澤 國幸

私は中堅青年講習會に行きまして何を書いてよいか分かりません。私の思つた事は、唯第二日目の一月二十九日の萩原駒人氏の「山林と耕作地」といふお話の事である。山林が九十二萬町歩と耕作地十七萬町歩といふ所に、先づ長野縣は林業を發達させなくてはいけないと思ひました。

□

駒澤 宮澤 要

疲弊せる農村の更生は青年の力にあり。身を切るやうな嚴寒をも厭はず、多忙なる當局の犠牲と努力に依つて開催せられたる中堅青年講習會に臨みて、其の所感の一端を述べて見よう。

我々青年として此の疲弊せる本村を如何に更生すべきか。

如實に見る農家の不振。

底知れぬ不況に襲來されつゝも未だ蔭に潜む好景氣時代の夢。

泰平の夢より醒めぬ人々。

此の農村非常時の路上に立ちたる我等青年こそ、最大の犠牲と努力が必要ではなからうか。

醒めよ青年、起てよ青年、流汗鍛錬、同胞相愛こそ我々農村青年の理想であり又農村更生の岐路であらうと思ふ。

財政上縣下第一豊を以て誇る本村が、數年を下らず經濟不振になると聞いては、何人も萬難を排して農村の爲に起ち、

又より以上に我等青年は努力をせねばならぬと云ふ事は考へる餘地もあるまい。此の時に當り我等青年は第一に精神を更生し、一致團結獻身報國を念頭に、心より土を愛し我農村更生に専心努力し、美しい農村人となつて邁進する覺悟である。

三日間の講習無事終了に當り、一致團結本村の更生に骨身を惜しまず働くこと云ふ事は、講習生一同思ふ所であつたらう。そして此の本村を俺達青年が何處迄も更生に努め、講習會を意義あらしめるべく、又當局の御期待に添ふやう努力するものである。

若人は熱し安く冷めやすし、講習會當時の心地を何時迄も持続したい。最後に此の講習會の爲に村當局及び直接御指導下された淺沼、三輪兩先生に厚く感謝する者である。

□

駒澤 宮澤 武春

私は駒澤新田の貧農の長男に生れ現在百姓をして居ります。幸ひ此の度の講習會に参加させて頂き、諸先生の熱心なるお話を聞き、諸先生の私共に與へられた事は「自分の職業を本氣にやるのだ」と云ふ事であると確信致しました。

私は過去八年間、十二月初めより翌年四月上旬までの四ヶ月を、僅かに各期間のみですが東京の大森―此處は海苔の生産地として全国的に有名な處です―此の大森の金子屋と云ふ保存食料品店に奉公致しました。初めて上京し店頭立つ時先づ主人の言はれた事は「店を良く見張つて居らねばいけない、油断をしてゐると前に列べた商品はかつばらはれて仕舞ふ。自轉車なども決して表に置いてはいけない、必ず裏へ廻して置くん」と。のんびり育つた私には何だか身が縮むやうな恐ろしい感じが致しました。それから郷里の方では、買物に行つても必ず兩方で挨拶をするのに、東京は店に入つて來るお客様が「今日は」とも何んとも言はないで入つて來て、店員が「いらつしやいませ、何差上げますか」と言つて初めて「何々頂戴」と言ひ、用事が済むと「有難う」とも何とも言はずにすうつと歸つて仕舞ふ事でした。それから稀に、「今日は」とか「有難う」とか言ふお客様が來ると、先輩の店員達は彼れは田舎者だと言ふのでした。自分はどう云ふ譯かお恥しい事ですが今日迄分りませんでした。それが初めて講習の第二日目の桑澤宥心和尙様の「感謝の生活」のお話しに思はず心の底から頷く事が出來得ました。我等の祖先は常に感謝の生活をせられて居られたのである。店に買物に行つ

ても必ず「今日は」と挨拶をして歸りには「有難う」と言つて歸る。實に品物を間に合せてくれて有難いと感謝し、商店は買つて戴いて有難いとお互に感謝し合つたのだ。此の精神が農村には今尙續き居るのだ。都會の人はこの美しい心持ちを忘れて居る人が多いのだ。我々の祖先はこうした小さな一事にも感謝の生活を爲し、無言のうちにお教へ下さつて居るのだと、僅かなれど商人生活をした私には一人深く感じ、農村に生れた事を嬉しく思ひました。

□

駒澤 宮澤 米春

非常時の打開は青年教育にありとの聲高き折から、此の意義ある講習會を催して下さつた村當局の方々に深く感謝し、これを喜ぶものであります。そして又身も凍るやうな嚴寒の折に、私共と寢食を共にせられましたとよく御指導下さいました淺沼、三輪兩先生に厚く御禮申上げます。

夜の明け切らない五時に起きて、寒風の吹く學校の庭で裸になつて體操をし、又神社を参拜して歩いた時の事を思ふと人間はどんな事でもやる氣ですれば出來るものと云ふ事を強く感じました。諸講師は縣でも一流の先生方が熱心に御話下さつた事ですから、私達にもよし此所はこうしてやらうと思ふやうに感じる所が數々ありました。中でも桑澤先生が生死の程も分らない大病人を殘して、私共の爲に約束を果された宗教家らしい態度には、一同聲なく只管に感激したのでした。講話の中で特に感じたのは、此の村を更生させるのには精神をよく修養して於て、良いと思つた事は誠實に實行して各自が手を取り合つて更生を圖つて行つたならば、やがては良い村に成ると信じて居ります。そして御骨折下さつた村の方々の御期待に添ふやうに致したいと思ひます。

□

駒澤 宮澤 今朝彌

村農會並に生活改善委員會の下に開催致されました中堅青年講習會に参加致しまして、私は心から自分と云ふものを知

る事が出来ました。我等の行くべき道、自分の行くべき道を知ることが出来ました。誠心誠意、己が務に進むこそ御奉公の道と存じ、今日唯今より一生懸命働く決心であります。筆不精なれと思ふまゝにします。

□

駒澤 宮澤 好知

先づ講習によつて感じた事は自己をはつきりと認識して生活せよと云ふ事であつた。百の理論より一つの實行、先づ働かう、働く事によつて百姓の趣味は生れてくる事であらう。経済的に精神的に汗によつて愛が生れるのであらう。幾ら経済組織が完全であつても働かざる事がどうして成果を上げよう。各名士の講演こそ若き我等の心に強き何物かを與へて呉れた。政談演説の超満員に比して割合と閑散である事をしみく感じた。先づ三日間に得たるものをしかと抱いて理論底理届は抜きに百姓として眞剣に働く事だ。健全なる體軀と健全なる精神を持つて自己更生に邁進する事が、我々百姓に與へられた大使命であらう。

□

駒澤 宮澤 代吉

中堅青年講習會に付きまして、朝の行事夜の行事もすべて感謝して居ります。農村諸問題に付き各講師の方々の御講話は皆感謝する計りでありました。世の中は持ちつ持たれつ、勤勞も努力も只自ら生かす目的に終らしむるものではありません。他人は私の爲に我は他人の爲に、富めるものは貧しき者を貧しきものは富めるものに助けつ助けられて行く、是ぞ日本精神の示す人生の送り方だと思ひます。

□

駒澤 宮澤 一豊

先づ精神を鍛錬してあの三日間の講習の心を忘れず、何時も講習に行つて居るつもりで働かねばならないと思ひます。

今我が川岸村は段々と赤字になつて來ます。今村を起すのは我等青年が一致團結して、其の三日間の講習の事を忘れず働かねば此の村は起きないと思ひます。

三日間の講習の二日の夜、住職桑澤先生が我々の爲に、重體の人まで置いてたとへ三十分でも私達の爲に、此の村の中堅になつて働き、又國家の爲に犠牲となつて働いて下さいと仰いました。私達は是から農村及國家の爲に命を捧げて働かねばならないと思ひます。

□

駒澤 宮澤 廣安

今度川岸村生活改善委員會並に村農會主催の中堅青年講習會の開かれるに當り、吾々如き者が入所し得て無事講習期間を終了し得たことは、各當局者の御熱誠なる御指導と御聲援の賜と深く感謝に堪へないのであります。期間中は各々其の道の多數權威者の御講演を聴き得たことは、吾々にとつては恰も暗夜に燈火を得た心地が致します。經濟更生を喧しく唱へられますが、今更生々と云はねばならぬやうになつたのは何人の罪でせう。政治的方面のことはさておいて、其の罪は吾々農民自身ではなからうか。都市文化に憧れて徒らに都會生活の模倣によつて生活經濟に欠陥を生じて、今日に至つたと思ふ。

吾々青年は起ち上るゝ農村を救ふ者は農村自身であり農村青年である。都會生活の模倣を捨てよ。愛と汗、只それによりてのみ更生し得ると思ふ。愛なき人生は暗黒なり、汗なき社會は墮落なり。吾等は百姓道に立ち返り中堅となつて働かう。道は近くにあり、先づ實行しやう。百千の理論より一つの實行に勝るものはないと思ふ。吾等は左の二宮翁の教を噛み砕かう。

天津日の恵み積みおく無盡藏鐵でほり出せ鎌でかりとれ

駒澤 宮澤 正象

私は三日間の講習を受け有難いと云ふ事を感じたのであります。我等四十七人の講習生の爲又村の爲に、これだけの講習を行ふべく努力して下さつた村當局又其の外の方々に感謝して居るのであります。又諸先生には痒い所に手がとどくが如くに御話し下さいまして、これ又感謝して居るのであります。昌福寺の和尚さんには今か後かといふ病人をふり切つて變りがあつても電話や人を寄してはならないぞと、これ迄にして我等の爲に御話しに来てくれた事、外諸先生の痒い所に手のとどくが如くに御話し下さつた事、又これ丈の講習を行ふべく努力して下さつた村當局其の外の方々の事を思へば、噫有難いと思ふと同時に涙の出るを禁じ得なかつたのであります。是等諸氏の御努力の萬分の一にも酬ゆべく一生懸命に、部落の爲又村の爲に大いに働かうと思つたのであります。簡單でありますが思つた事を少しく書かして頂いたのであります。

鮎澤 小泉 弘美

去る二十八日より三十日迄、諸先生の爲に成る講習會を受けまして非常に修養になつたと心得ます。就て我等青年は諸先生の御教を守り、思想改善、質實剛健なる青年となり、以て農村の非常時に直面し第一線に立ち、健全なる更生農村の建設徹底を期するべく中堅青年となりたい希望であります。

鮎澤 鮎澤 多喜男

今迄あちこちと迷つた自分をつくづく生活難時代あるといふ事を感じた。そしてそこに百姓と云ふものの光を見出した。丁度其の頃村で中堅青年講習會を開くといふ事聞き、自分も貴い講習を受けたいと思ひ申し出た。やがて当日は來た。

そして自分は講習會の三日間に何を感じたか？あの寒風吹きすさみ雪すら舞ふ其の中で裸體操をした時に「何でも精神の持ちやうによつて出来ない事は無い」と言ふ事、又諸先生の講話を聞く時に、共同力の偉大であると言ふ事を深く心に刻みつけられたのであります。そして我々若人の力で行詰る寒村を更生しなければならぬと云ふ事を強く感じたのであります。最後に貴い講習會をお聞き下さつた皆々様の御努力を深く感謝致すのであります。

橋原 花岡 朝一

我等は此の度の講習會を御開催被下れた當村の御皆々様に厚く感謝致すものである。我等はこの三日間の講習會に於て幾多の農村更生の道に就て深く學んだのである。要は唯我等の實行であるが、我等は一時の感激のみであつてはならぬ。千里の道も足下より初まるのである故、先づ第一に我等の精神が更生されねばならぬ。基督は曰く「人新たに生れずば神の國を見る事能はず」我々人間は神の能力に依つて其の精神が新しく生れ變らねばならぬ。即ち自力に非ず他力に依つて我々の精神は更生されるのである。彼の行き詰つた農業國デンマークの更生の根本は何か、夫れは彼等の中心に働く信仰の能力である。眞實の信仰ありてこそデンマーク國は更生されたのではないか。第二に我等の實行である。日本人は熱し易く冷め易い缺點があると云はれるが、それは精神教育が充分にされていない事が源である事を覺らねばならぬ。我等は他力によつて廻り實行者にならねばならぬ。實行は更生された精神より出發し、精神は信仰より出發するのであつて、信仰と精神と實行との三つを教へて呉れたのが去る三日間の講習會であつた。今や我が國は非常時である。眞に我が國の前途を憂ひ、其の更生と發展とに盡力する勇士は少ない。我等先きに選ばれたる四十七勇士は一團となつて信仰と、向上更生された大和魂と、更生計畫の實行とを以て眞の忠君愛國の勇士として戦はねばならぬ。

明治天皇御製

目に見えぬ神のこゝろにかよふこそ人の心のまことなりけれ

此の度我々青年の爲めに、此の中堅青年講習會を開いて下さいました事を村の當局の方々に深く感謝し厚くお禮申上げます。僅か三日間の短期間ではありましたが、我々青年の學ぶべき所最も大でありました。疲弊せる農村の更生は先づ我々青年でなくてはならぬ。そして我々の今迄の個人主義精神を捨て、一致團結になり我が身を犠牲として我々農村再生の爲めに務むの所謂日本精神、日本魂でなくてはならないのであります。講話中のあの桑澤先生の話こそ、本當の日本精神でなくして何でありませう。私はしみじみと感じました。

よしやるぞ、我々農村再生の爲めに、我々農民の爲に、何處迄も死力を持つて我が身を捨て、犠牲となり、そして農村再生の爲め盡す覺悟をしたのであります。以上を以て私の感想の一端とす。

□

橋原花岡正展

我々青年の爲に斯くも有益なる中堅青年講習會を開き下されました主催者又は指導者に對しまして、唯感激致す身であります。諸講師のお話にもそれ／＼得る處がありましたが、特に感じたのは昌福寺住職の桑澤さんのお話を拜聴するに、病人の奥さんが今危篤と云ふのに拘らず、一旦約束したので講師として壇上に立たせられました。手には藥瓶と注射五分をさげ、家を出る時には「講演さへ終れば直ぐ歸るから、電話や人をよこしてくるな」と云ひ残して來て下された事をお聞きするに唯涙にむせぶのであります。

此の偉大な精神こそ日清、日露の戦に、或は滿洲の曠野に於て血を浴びて「天皇陛下萬歳」と斃れた勇ましい尊い日本精神に變りはないと信するのである。此の日本精神こそ弱年ながら生れて始めてであり、しかも眼前に於て味はへた事を非常に感謝すると共に、あの開講式の日宮澤助役様の開式の訓辭の御期待に添ふ覺悟であります。

我は此の偉大なる日本精神を維持して、川岸村に生を受けてすこやかに育ち、又幸福に教育されました萬分の一でも報ゆべき農村再生又は經濟再生の爲、延いては國家の爲に成す覺悟であります。

大神の護りたまへる力あれば難き業とて成らぬものは

簡單ではあります之を以て感想の一端となすのであります。

□

橋原上條正

我が里を背おひたゝむと丈夫のちかひはりゝし大和鉢巻
むさぼりの夢さまさばやと我志士は鎮守の宮に我を忘れて
ふりたゝむ雪ものかは明方の天をもぬかむ眞裸われら
この夜更け己がはからひ打すてゝみそぎにみたまます我師ら
あさまだき宮居に集ふ丈夫が誠心を拍手にこめ
えらばれし使命を肝にはらからは君が彌榮聲はりあけて

女子聽講生感想

小 松 芳 子

此度明魂録發刊に當り、川岸村中堅青年講習會と類似の本郡農會主催の中堅婦女講習會に受講生の一人として加へて頂いた私、心から感謝致して居ります。受講中の感想をとのこと、淺學な私貧弱な拙ない駄文が貴い誌面を汚す懸念を省みずペンを取りました。僅か四泊五日間の短期間の講習でございましたが、受けた感化はそれこそ私にとつて大きな革命であつたと思はずには居られません。諸先生の御熱心な御講話には、只々感激に満たされて咽び泣けて來るばかりでした。心の垢は思はず落す涙に洗はれ、醜き我も始めて心に美しいものを得ました。

非常時だ、躍進日本だと、折ある毎に見たり聞いたりする時、無能力な私でも自から心の引しまるを感じます。絲價の暴落、農村の疲弊、不景氣々々の嘆聲ばかりからしてゐる現今、此の様に生存競争の激しい世の中に、あらゆる闘争の社會に如何にして生きんか！生活の爲、欲望の爲、人と闘ひあらゆる生物と闘ひ、大自然とも闘つて生を受けしより、其の生涯はあらゆる事物と惡戦苦闘して、その征服者が當然それを支配して優者として永久に榮え行くのだ。歴史の一頁を開く時、そこには大小の差こそあれ闘争は明らかに記されてあります。博物學者ダーウキンの進化論に「人は生存の爲に互に競争し合ふ、然して打勝し者は優者として此の世に生存して行く。落伍者は劣者として永遠に葬りさられる。故にそこに社會の進歩あり、生物の進化あるのだ」と、闘争がある故に文化はたへず無限に向上する。文化の進歩する國即ち優者として益々榮え、文化の遅々として進まぬ國は劣者として優者に征服され支配されるのである。

その征服者は！その優者は！其の征服者その優者こそ、實に純眞な實行力に富んだ我等青年ではございませんか。

青山いたる處にありと云ふ、而しわれ何すれど此の山此の川のほとりに生れたる、奇しきかなこの縁。われ何すれど此の仕事にたづさはる。其の職場にこそ理想の源があるのだ。道は近きにある。

良心の絶對命令に絶對服従して、正しい道を踏みはずすまいと懸命に歩むのだ。たへず前途に光明を求めて。詩聖ゲーテの臨終の言葉は「もつと光明を、もつと光明を——」と云ふのであつたさうだ。最も偉大な思想家らしい終焉な言葉だと思ふ。彼の言つた意味は、次第に眼が見えなくなつて來た爲に、もつと部屋を明るくしてくれといふのであつたかも知れない。然しこれを詩聖ゲーテの言葉として受けとる時に、人生にもつと光明を與へよ、光明さへ與へれば人間は救はれるのだと云ふ意味にも考へられる。ゆへに光明を多く與へられたものはみんな進歩した。みんな淨化した。光明とは教へで有る。教へは道であり生命であるのだ。此の教へに寄り人類は進歩し向上して來たのだ。今まで知らなかつた宇宙の神秘も自然科学者の鋭い研究により日増に明瞭になりつゝあるのです。科學の力は本當に偉大なものだ。然し科學は眞理を教へてくれるが實踐實行は教へてくれないのだ。皆さん空理空論を排して、此の講習に得た貴い體驗を實行に移し流汗鍛練、同胞相愛の二大誓願、愛と汗の行者となり、無限の向上發展を願ひ理想郷を作るのが私共の使命であり念願ではございませんか。助けつゝ、ひたすら祈りつゝ、目的に向つて邁進する覺悟であります。

金 原 ふ み 子

中堅青年講習會に私共女青をも、種々有益なる講演を共に聴く事を得ましたことを衷心から感謝してゐる次第でございます。折角有益なる話を聞いても只其の場だけに終つてしまつたり、「實行したなら良いだらうが」だけでは何の足しにもならない。先づ足許から一歩づゝ是を直ちに實行してこそ、始めてそれが生命あるものだと思ひます。各方面に涉つて黙々と計畫をお立ての事と存じます。私の云はふとすることは餘りに抽象的かも知れませんが、而し私は若き心の一途に是を切望して止まず拙きペンを取つた次第でございます。

先づ「酒」について極く狭い範囲内で考へて見ても、此の禍は實に寒心に堪へないものがあります。冠婚葬祭に一切酒を用ひない事にしたらどんなによいだらう。(現に清水で結婚式を擧げてゐる村もあり)或は集會の様な一切の公の場所に(各部落に於ても)一切の禁酒が行はれたら、その時間及び實質的に浮く経済さは大したものだと考へます。

どんなにか反對する人々もあるだらうが、其の人自らに及ぼす害を思ふだに黙然と見てゐるに忍びません。親の心子知らずと云ふ言あれど、酔ひ酔ひてゐます親の姿を思ふて暗黙となる子の心を全く親知らずである。

是から伸び行く若き人々の爲にも、是非共此の實際行に移して頂きたいと切望して止まない次第でございます。時々「酒呑みは間接に國税を納めてゐるのだ」とく／＼としてゐる人の言を聞き「他人が儲ける爲に無駄な金をそこにみつぐ必要はない」と云ふ事を深く悟らねばならないと思ひます。

凡そ何事によらず、今迄のしきたりを改める事はなまやさしい事ではないと思ひますが、確固たる信念のもとに村の中心たる役場の方々が先に立たれて、實踐躬行して戴きたいと切望して止まない次第でございます。

よし私等の力は小さくとも、この私を育んでくれた又育んでくれつゝある此の故郷のために、私等は其の身分相應の黄金の釘をしつかり打ちたい、打たねばならないと思ふ。憎まれつゝ生きるより、どんなに僅かでも、よし目には見えなくても、少しでも役立つ存在であらねばならない。

「童心に立ち返る」何とよい言葉だらう。年齢、地位、名譽の一切を忘れて幼子の如き心を持ちて、學び得る限りを學び大いに伸び得る限りありつたけを伸ばしたいと思ふ。老も若きも共に手を取りあつて一ツ心に。

長いやうで短い我等の生涯を思ふ時、何を目的に生きてゆくべきか？ 最後のものは自己完成だと耳もとに囁く心の聲を聞く。求めて止まない伸びんと欲する心。

目に見えないものへの忠と不忠實とが、やがて各人の人格の相違を齎らせるものではないかしら？ と、こんな思ひが此の頃頻りに浮ぶ。

講習生の中にはかなり先輩の方々も見えられたが、非常に結構な事だと思つた。出来る事なら會場に集つた人全部が否もつと理想的に云ふなら、凡そ村に住む人全部が、先生、生徒、老若男女を問はず、一緒にあゝした集ひをやりたいものだ。眞剣に。我等こゝに蒔かれたる種子の如く各々が持てるその性質を十分に發揮して、各々十分の成長を遂げたいものである。男子青年の方々に置かれては此の講習を受けての一つ／＼を生命あるものにして、しつかり生かして頂きたいと希望して止みません。お互に何處迄も農村青年らしい成長を。

終りに臨み淺沼さんのその熱と眞剣さを思ふ時、自ら頭の下るのを覺えずには居られません。何卒此の打算的になりやすい潤ひのない村の爲に、尙一層御盡力下さいますやう、ひたすらお願い申上げる次第でございます。

□

鮎 澤 末 子

中堅青年講習會三日間に涉り、有意義なるお話を拜聽させて戴きまして本當に嬉しく感謝に堪へません。私は今後は是に依り尙一層精神修養に努め、日本女性の使命を完うする覺悟でございます。お互に自己を神様に捧げて眞心から人類を敬愛し、己の職業に魂を打ち込んで進んでこそ本當に幸福な人生の道が歩める事を深く悟りました。

如何に文明の世の中でも、人間の眞心に打克つものは有りません。私共青年がお互に虚榮心を去つて、清く正しく誠の心を持つて農村更生の爲に眞直ぐに進む事を誓ひ、年の始めに意義ある講習會を喜びて希望多き昭和十一年を勇ましく出發致しませう。

□

林 生 美 子

前夜よく眠り身體の疲れてゐない時、誰もゐない静かなお部屋に入り、机にもたれて眞面目に静思冥想致します時、時のたつのも忘れていゝ心持になつて來ます。すべては「心」であります。「心」の中に總てがあります。神様を我がものに致

したすのも「心」、又其の「心」の中に神様はゐて下さる。「心」は我がものであると考へさせられると、どうして自分の一身をあだに粗末にされませう。
自分を愛することの出来ないものが、どうして萬人を愛することが出来ませう。人の世の最後まで頼りは自分のみであると思はれます。淋しくとも、か弱くも自分一人である。そして人生の最後まで頼りは自分のみであります。自分、あゝ自分!! こんな力強いものがあるものでせうか。自分こそ確かだ、確かだ!! と思つた時は既に歡喜光明に溢れて最早大きな自分でありました。

昭和十一年八月五日印刷
昭和十一年八月十日發行

非賣品

編輯兼發行人
兼印刷人

長野縣諏訪郡川岸村
川岸村經濟改善委員會
代表者 片川 倉 勝 農 會

印刷所

長野縣諏訪郡川岸村
鮎澤印刷所

終

